

機能性ディスぺプシア治療薬： アコファイドについて

機能性ディスぺプシア（FD：functional-dyspepsia）とは、胃の痛みやもたれなどのさまざまな症状が続いているにもかかわらず、内視鏡検査などを行っても、胃潰瘍・十二指腸潰瘍や胃がんなどのような異常がみつからない病気です。



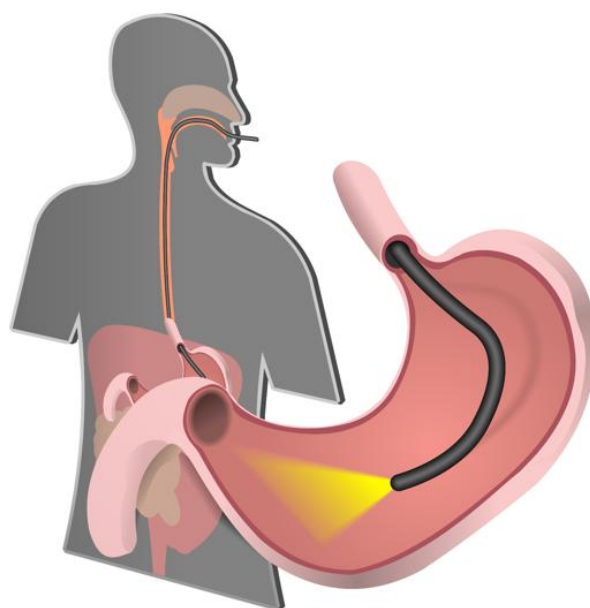
機能性ディスぺプシア（FD）の患者さんに多くみられる症状は、食後のもたれ感、早期飽満感、みぞおちの痛み、みぞおちの焼ける感じの 4 つです。他にも吐き気、げっぷなどの症状を訴える方もいます。



アコファイドの適応は「機能性ディスぺプシアにおける食後ぼう満感、上腹部ぼう満感、早期満腹感」。用法・用量は「成人、1回100mgを1日3回食前投与」となっています。



本薬の投与に際しては、内視鏡検査などで悪性疾患（胃癌など）を除外することが必要です。また、心窩部痛や心窩部灼熱感には、有効性が確認されていないことにも留意する必要があります。



国内臨床試験では、副作用が16.3%に認められています。主な副作用は、血中プロラクチン増加（3.6%）、下痢（2.1%）、ALT増加（1.8%）、便秘（1.6%）、 γ -GTP増加（1.2%）などでありました。



補 足

消化管（胃や腸）の運動を活発にする物質として**アセチルコリン**があります。私たちの体の中には**アセチルコリン**を分解する酵素が存在しており、この酵素を**アセチルコリンエステラーゼ**と呼びます。**アコファイド**は**アセチルコリンエステラーゼ**の働きを抑えて消化管（胃や腸）の運動が活発になります。

